

津波警報の教訓

「支えあうことで災害は乗り越えられる！」

7月30日、田原市に津波警報が発表され、多くの人が避難しました。急なことに驚いた人もいたのではないのでしょうか。幸い大きな被害はありませんでしたが、この時のことを振り返り、災害に対する知識・理解を深め、今後の防災対策につなげていくことが大切です。

▶ 防災対策課 ☎23-3548

津波警報ってどうやって発表されるの？

津波警報などの予報は、気象庁が発表しています。気象庁はあらかじめ、津波を発生させる可能性がある断層を設定して津波の数値シミュレーションを行い、その結果を「津波予報データベース」として蓄積しています。



①警報・注意報の発表

地震が発生すると、津波の高さと到達予想時刻を「津波予報データベース」を用いて予測し、その結果から警報・注意報が発表されます。

②津波の高さと到達予想時刻の発表

津波警報・注意報を発表する場合には、全国の沿岸を66に分けた津波予報区ごとに、予想される津波の高さと到達予想時刻も含めて発表されます。

津波警報・注意報の種類や浸水深による影響

●津波警報などの種類と発表される津波の高さなど

種類	発表基準
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合
津波予報 (若干の海面変動)	予想される津波の高さが高いところで0.2m未満

避難は「より高いところ」へ



注意報の津波でも場所によっては命の危険があるんだね

●津波の浸水深による影響

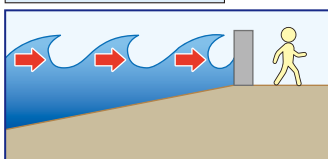
0.3m以上 避難行動がとれなく(動くことができなく)なる
1.0m以上 津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる

※津波の浸水深とは、津波により、市街地や家屋、田畑が水で覆われるときの地面から水面までの「深さ」のこと。

ふつうの波と津波は大違い！

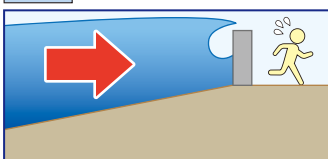
風によって生じるふつうの波(波浪)は海面付近の現象ですが、津波は海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波であり、浅い海岸付近に来ると波の高さが急激に高くなる特徴があります。

ふつうの波(波浪)



・波長は、数m～数百m程度
・海面付近の海水だけが押し寄せる

津波



・波長は数km～数百kmと非常に長い
・海底から海面まで、海水全体が押し寄せる